

1. 令和4年度事業内容等

No.	16	事業名	子育て支援に関する情報発信	区分	拡充
担当課		民生子ども課	関係部署（所）	—	
趣 旨		紙及び電子媒体による乳幼児向けのイベントなど最新の子育て支援情報を入手しやすい環境を整えることで、在宅の子育て家庭等の孤立化を防ぐ。			
事業予定		1 区独自の子育て支援情報サイト「なかがわっ子」の改修 【拡充】 子育て家庭の実情を踏まえ、スマホ最適化や操作性の向上等、子育て支援情報サイトをより活用しやすいよう改修を行い、情報提供の充実を図る。 2 紙媒体での子育て支援情報の提供 子育てサイトを利用しにくい家庭などにも情報提供できるよう、年2回の「なかがわっ子サポートマップ」及び毎月の「キッズカレンダー」を作成し、配布する。 3 区役所内のキッズコーナーを活用した情報提供 区役所内キッズコーナー「すまいる」にて、地域子育て支援拠点や子育てサロン等のチラシを配架する。 4 保育案内人の出張相談 <u>感染対策</u> 子育てサロンや地域子育て支援拠点等に保育案内人を派遣し、保育所等への利用を希望する保護者等の相談に対応する。			
計画目標		区独自の子育て支援情報サイト「なかがわっ子」閲覧数 80,000 回			

2. 令和3年度の実施結果

（評価：☆☆）

計画目標	保育案内人の出張相談 24 件
実施内容	1 子育て情報チラシ等の作成及び提供 紙媒体での情報提供として、年2回の「なかがわっ子サポートマップ」及び毎月の「キッズカレンダー」を作成し、区役所窓口や各関係機関で配布することで、区民に広く提供できるよう努めた。 2 ウェブサイトを活用した子育て情報の発信 区独自の子育て支援情報サイト「なかがわっ子」の運用を行い、急なイベントの変更等、タイムラグの少ない情報提供を行うとともに、コロナ禍においても地域の子育てサロンや保育所等の情報を広く発信することができた。 3 区役所の子育て情報コーナーにおけるチラシ等の配架 子ども連れの来庁者に子育て情報を提供するキッズコーナー「すまいる」にて、地域子育て支援拠点や子育てサロン等のチラシを配架した。 4 保育案内人の出張相談 子育てサロン12件、地域子育て支援拠点2件に保育案内人を派遣し、参加した保護者の保育所等に関する相談対応を実施した。
実績	保育案内人の出張相談 14 件
総括	コロナ禍において、子育てサロンや地域子育て支援拠点が縮小、中止となる中、保育案内人の出張相談は思うように実施できなかった。 一方、コロナ禍においても様々な子育て支援のニーズは高く、子育て支援サイトを中心に広く情報の発信ができた。 今後は、より広く効果的な情報発信について検討する必要がある。

1. 令和4年度事業内容等

No.	17	事業名	妊産婦及び新生児・乳児への育児支援	区分	継続
担当課	保健センター保健予防課 関係部署（所） —				
趣 旨	面接や家庭訪問をととして育児や家庭に関する相談に応じ、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行う。				
事業予定	1 妊婦面接の実施 <u>感染対策</u> 保健師・助産師などが、妊娠届を提出された妊婦またはその家族の方々に面接を実施し、安心して出産・子育てできるよう、妊娠中から支援する。 2 新生児・乳児訪問の実施 <u>感染対策</u> 出生報告の提出された新生児・乳児と産婦とその家族が、育児不安を軽減し安心して育児に取り組めるよう、3（4）か月児健診までの乳児早期に、保健師・助産師が家庭訪問で相談対応、支援する。				
計画目標	・妊娠届を提出された妊婦またはその家族の方への面接率 100% ・出生報告提出家庭への新生児・乳児訪問実施率 98%				

2. 令和3年度の実施結果

(評価：☆☆☆)

計画目標	1 妊娠届を提出された妊婦またはその家族の方への面接率 100% 2 出生報告提出家庭への新生児・乳児訪問実施率 98%
実施内容	1 妊婦面接 安心して出産・子育てできるよう、妊娠中から支援するために、保健師・助産師などが、妊娠届を提出された妊婦またはその家族の方に面接を実施した。 2 新生児・乳児訪問 産婦やその家族が育児不安の軽減をはかり安心して育児に取り組めるよう、出生報告を提出された家庭に、保健師・助産師が3（4）か月児健診までの間に家庭訪問を実施した。
実績	1 妊娠届を提出された妊婦またはその家族の方への面接率 100% 2 出生報告提出家庭への新生児・乳児訪問実施率 94.9%
総括	妊婦面接は100%できており、妊娠期からの支援ができている。 新生児・乳児訪問は、新型コロナウイルス感染症の影響で、長期里帰りする方や訪問拒否をされる方もみられた。令和4年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した訪問の実施と関係機関との連携のもと、支援方法の検討をしつつ実施していく必要がある。

1. 令和4年度事業内容等

No.	18	事業名	中川区シェアブックス事業	区分	新規
担当課	民生子ども課	関係部署（所）	中川図書館、富田図書館、保健センター保健予防課、中川児童館		
趣 旨	子育てサロンでの絵本の活用や、読み聞かせの実施、乳幼児健診時の紹介などを通して、赤ちゃんともわりの人が絵本を介して心を通わせるきっかけとなる体験を提供する。				
事業予定	1 子育てサロン等での絵本に触れる機会の提供 感染対策 子育てサロンの開催場所や区役所、児童館等に0歳児向けの絵本を設置し、子育てサロン開催時等に絵本に親しむ機会を提供する。 2 読み聞かせボランティアの派遣 感染対策 子育てサロン等の子育て支援機関や各種イベントに読み聞かせボランティアを派遣し、絵本の読み聞かせを通じた心温まる体験を提供する。 3 3（4）か月児健診時の広報・啓発 感染対策 3（4）か月児健診に来所した子育て世帯に対し、事業の趣旨を広報・啓発したり、絵本を手にとってもらう機会を提供する。				
計画目標	読み聞かせボランティアの活動件数 36件				

1. 令和4年度事業内容等

No.	19	事業名	子育て支援講座の開催	区分	継続
担当課		民生子ども課	関係部署（所）	中川児童館	
趣 旨		子育て支援講座を開催し、親自身が子どもとのかかわり方などについて学ぶことにより、子育てに関する不安を軽減させるとともに、支援が必要な家庭を把握し、地域の子育て支援につなげていく。			
事業予定		1 スターペアレンティング講座の開催 感染対策 親自身も大切にしながら、叩かず、甘やかさず、楽しみながら子育てするための方法を学ぶワークショップ中心の連続講座を3回程度開催する。 2 「フレッシュママの子育て入門」の開催 感染対策 生後4～7か月のお子様を対象に、0歳児の特性や生活リズムを学びベビーマッサージやリトミック等親子のふれあいを行う講座を6回程度開催する。 3 子ども・子育て支援センター共催講座等の開催 感染対策 より年齢層の高いお子様をお持ちの子育て家庭向けの内容となる子育て支援の講座を開催する。講座内容については、子ども・子育て支援センターとの共催や、区内の子育て支援関係団体で構成する「中川区子育て支援ネットワーク」との連携を踏まえて検討していく。 ※ いずれの講座も、開催の際は事前予約にて実施予定。			
計画目標		子育て支援講座の開催 10回以上			

2. 令和3年度の実施結果

(評価：☆☆)

計画目標	・スターペアレンティング講座の開催 5回 ・フレッシュママの子育て入門の実施 6回
実施内容	1 スターペアレンティング講座の開催 親自身も大切にしながら、叩かず、甘やかさず、楽しみながら子育てするための方法を学ぶグループワーク中心の講座を開催した。児童虐待防止月間の企画として2回、子ども・子育て支援センターとの共催事業として3回の計5回開催。 2 フレッシュママの子育て入門の実施 0歳児とその保護者に対し、ふれあいリトミックやベビーマッサージと第1子を抱える母親同士の交流の機会を提供する講座をオンラインで2回開催。
実績	・スターペアレンティング講座の開催 5回 ・フレッシュママの子育て入門の実施 2回
総括	いずれの講座も、対面を前提とする内容があり、一部新型コロナウイルス感染症の影響により実施できないものがあったが、オンライン方式での開催を実施するなど、新しい試みを行った。開催した講座は参加者の満足度が高く、充実した内容であったが、いずれの講座も0～1歳のお子様をお持ちの保護者の方の参加が多く、より幅広い年齢のお子様をお持ちの保護者に受講してもらえるような子育て支援講座の内容を検討する必要がある。

1. 令和4年度事業内容等

No.	20	事業名	発達に遅れのある子どもの親を対象とした支援	区分	継続
担当課	保健センター保健予防課	関係部署（所）	—		
趣 旨	発達に遅れのある子どもの親が、教室やグループ活動をとおして、正しい知識を持ち、情報交換をしながら共通の悩みや育児不安を解消できるようにする。				
事業予定	・パンダグループの実施 <u>感染対策</u> [対象] 発達に遅れのある子どもの親 [内容] 交流会、勉強会、数人のリーダーママを中心に実施のほか、講演会をパンダグループ参加者や、その他の子どもの発達への悩みを抱える親支援の場として開催する。				
計画目標	パンダグループの開催（講演会を含む） 7回				

2. 令和3年度の実施結果

(評価：☆)

計画目標	・ママともクラブの開催 2回 ・パンダグループの開催 7回
実施内容	1 ママともクラブ 新型コロナウイルス感染症の影響や対象者数の減少、個別性により実施はできなかったが、個別支援で対応をした。 2 パンダグループ 発達に遅れのある子どもの親を対象に、リーダーママを中心として交流会を実施した。
実績	・ママともクラブの開催 0回 ・パンダグループの開催 3回
総括	ママともクラブを令和3年度は開催できなかった。中川区では、思春期セミナーなどの対策をすすめる中で若年の親の減少傾向がみられる。一方、その一人一人の抱える複雑化した背景により、関係機関との協力のもと、個別支援への移行を重視していく必要がある。 パンダグループは、新型コロナウイルス感染症の影響により一時中止をしながら、交流会の形式の工夫をしたり、講演会も実施し、定員以上の申し込みがあった。過去2年間、感染症拡大の影響で、継続的な開催ができなかったことから、グループリーダーママの継承が困難になっている。今後も参加者の悩みや声を聴きながら、運営の工夫の検討をしつつ継続していく必要がある。

1. 令和4年度事業内容等

No.	21	事業名	子育て家庭向け交流イベントの開催	区分	継続
担当課		民生子ども課	関係部署（所）	—	
趣 旨		子育て家庭同士の交流を深めたり、子育てサロンや地域子育て支援拠点といった子育て関係機関の支援につなげることを目的として、子育て家庭向け交流イベントを開催し、地域での子育て家庭の孤立化を防ぐ。			
事業予定		・子育て家庭向け交流イベントの開催 感染対策 区内の子育て関係機関や活動団体で構成する「中川子育てネットワーク」主催で、子育て家庭の交流の場の提供や、地域の子育て支援機関につながるきっかけ作りを目的とした交流イベントを実施する。 幅広い子育て家庭に参加していただけるよう、大規模イベントを中心に、地域密着型の小規模なイベント等様々な方法で開催し、子育て家庭の交流の場の提供、日常の子育て支援へつなげていくことで、地域での子育て家庭の孤立化を防ぐ。			
計画目標		子育て家庭向け交流イベントの開催 3回			

2. 令和3年度の実施結果

(評価：☆)

計画目標	子育て家庭向け交流イベントの開催 3回
実施内容	・当初予定していた交流イベントは、参加者 100 名以上を見込む大規模なイベントであり、新型コロナウイルス感染症の影響により3回とも中止とした。 ・代替として、区内の子育て支援機関や団体で構成する「中川子育てネットワーク」の団体間で連携し、参加者 10 名程度の小規模イベントを2回実施した。 小規模イベントは、地域の公園での開催や普段とは違う内容とし、通りかかった親子が参加するなど新たなきっかけ作りとなった。
実績	子育て家庭向け交流イベントの開催 0回（代替あり）
総括	実施した小規模イベントは、地域の公園という普段とは違う場所や普段とは違う内容のイベントとすることで、新たな参加者もあり、事業の趣旨を達成する内容であった。 コロナ禍で子育て家庭の交流や支援につなげる機会が減少する中、令和3年度のノウハウを広げ、このような機会をより多く提供できるようにする必要がある。

1. 令和4年度事業内容等

No.	22	事業名	地域における子育て支援の人材育成と活動促進	区分	継続
担当課		民生子ども課	関係部署（所）	—	
趣 旨		子育て支援の担い手となるボランティア「なかがわっ子サポーター」を養成し、子育てサロンや子育て家庭の交流イベント等の活動の場を提供することで、地域での継続的な子育て支援活動を促進する。			
事業予定		1 なかがわっ子サポーターの活動の場の確保・活動支援 感染対策 地域で子育て支援活動を行うための場を広げていけるよう、各機関への活動紹介を行うなど、新たな活動の場を積極的に開拓していく。 2 なかがわっ子サポーター養成講座の開催 感染対策 区内の子育て支援ボランティアである「なかがわっ子サポーター」になるために必要なことを学ぶ講座として開催し、子育て支援の担い手を養成する。 3 なかがわっ子サポーターステップアップ講座の開催 感染対策 「なかがわっ子サポーター」としてのスキルアップを目指し、より専門性の高い知識を身に付け、多様なニーズに対応できるための講座を開催する。 4 区内3高校との連携による「なかがわっ子高校生サポーター」事業の実施 感染対策 高校生の段階から乳幼児やその家庭との関わり方を学ぶことにより、若年層による地域での子育て支援の機運を醸成する。			
計画目標		なかがわっ子サポーター延べ活動件数 288 件			

2. 令和3年度の実施結果

（評価：☆ ）

計画目標	なかがわっ子サポーター延べ活動件数 243 件
実施内容	1 「なかがわっ子サポーター」の活動の場の提供 62 件 コロナ禍において、子育て支援の場が減少する中、地域の子育て支援ボランティアである「なかがわっ子サポーター」の活動の場について、新たに保育園入所面接の際の託児依頼を設ける等活動の場の提供を実施した。 2 「なかがわっ子サポーター」としてのスキルアップを目指し、より専門性の高い知識を身に付けるためのステップアップ講座を開催した。 年度当初計画していた「なかがわっ子サポーター養成講座」及び「なかがわっ子高校生サポーター」については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。
実績	なかがわっ子サポーター延べ活動件数 62 件
総括	新型コロナウイルス感染症の影響により、講座や子育てサロン等の場が減少する中、「なかがわっ子サポーター」の活動場所の提供が非常に困難な状況であった。 「なかがわっ子サポーター」の活動の場が広がっていき、地域の子育て支援の担い手や支援内容が充実するよう検討していく必要がある。

1. 令和4年度事業内容等

No.	23	事業名	地域の子育てサロンの運営支援	区分	継続
担当課	民生子ども課	関係部署（所）	保健センター保健予防課 中島保育園（エリア支援保育所）		
趣 旨	保育士や保健師などの専門職、保育案内人を地域の子育てサロンに派遣し、日常の置き場所がない大型絵本や遊具の保管・貸し出しを行うことにより、地域の子育てサロンの活動内容の充実や運営の支援につなげ事業の活性化を図る。				
事業予定	1 専門職等の職員派遣 感染対策 エリア支援保育所等の保育士や保健センターの保健師、保育案内人を子育てサロンに派遣し、各種講座の開催やより専門的な相談を受ける等の活動を実施する。 2 子育て支援物品の貸し出し サロン開催場所では置き場所に困るような大型絵本をはじめとする子育て支援物品を地域子育て支援センター等に置き、子育てサロンへの貸し出しを実施する。関係機関へ積極的な事業の周知を実施し、子育てサロンの活動の充実や魅力の向上につなげ、子育てサロンの活性化を目指していく。				
計画目標	専門職の派遣及び子育て支援物品の貸出 230 件				

2. 令和3年度の実施結果

(評価：☆)

計画目標	専門職の派遣及び子育て支援物品の貸出 230 件
実施内容	1 職員の派遣 子育てサロンへ専門職等を派遣し、各種講座の開催や、より専門的な相談を受ける等の活動を行った。 派遣回数 ・ エリア支援保育所等の保育士：31 件 ・ 保健センターの保健師：42 件 ・ 保育案内人：12 件 2 子育て支援物品の貸し出し 2 件
実績	専門職の派遣及び子育て支援物品の貸出 87 件
総括	新型コロナウイルス感染症の影響により、子育てサロンの開催自体が困難な状況が続き、派遣や貸出をする機会自体が減少したことに加え、関係機関への事業の周知が足りておらず、活用されていないという面もあった。 子育てサロンが本事業を活用しやすいよう周知等に努めていく必要がある。

1. 令和4年度事業内容等

No.	24	事業名	児童虐待防止の推進・啓発	区分	継続
担当課	民生子ども課	関係部署（所）	支所区民福祉課、保健センター保健予防課 西部児童相談所		
趣 旨	児童虐待防止月間を中心として、区民への児童虐待防止ダイヤル「189」を広報することで、児童虐待の未然防止や早期発見につなげるとともに、関係機関との会議、システムを活用した情報共有を実施し、児童虐待への適切な対応を図る。				
事業予定	1 児童虐待防止の広報・啓発活動 感染対策 児童虐待防止や早期発見につなげるために、条例に基づき定められた5月と11月の児童虐待防止推進月間を中心として、児童虐待防止ダイヤル「189」をより一層広報・啓発を促進するために、これまでの広報啓発活動に加えて、新しい媒体や新たな関係機関への働きかけなど、より幅広い広報啓発に努める。 2 要保護児童対策地域協議会の開催 感染対策 年1回の「なごやこどもサポート中川区代表者会議」、月1回の「中川区実務者会議」、必要に応じて「サポートチーム会議」の各会議を開催し、要保護児童等の情報共有及び関係機関における連携支援の強化を図る。 3 児童虐待情報データベースシステムの活用 システムを活用し、関係機関同士がリアルタイムに状況を共有し、連携した支援の実施及び児童虐待の発生予防、早期発見対応等に結びつける。				
計画目標	児童虐待防止ダイヤル「189」の広報啓発の促進				

2. 令和3年度の実施結果

(評価：☆☆☆)

計画目標	オレンジリボンキャンペーン活動の実施 2か月間
実施内容	1 要保護児童対策地域協議会の開催 関係機関と連携を図る会議を適宜実施し、要保護児童等の情報共有及び関係機関における連携支援の強化を行った。 2 児童虐待情報データベースシステムの活用 システムを活用し、関係機関同士がリアルタイムに状況を共有することで、連携した支援の実施や早期対応等に結び付けた。 3 児童虐待防止の広報・啓発活動 児童虐待防止や早期発見につなげるために、条例に基づき定められた5月と11月の児童虐待防止推進月間を中心として、児童虐待防止ダイヤル「189」の広報啓発活動を実施した。駅や商業施設での啓発物品を配布したことに加え、新たに子育てサロンの場を通じて利用者等に啓発し、また、子育て支援講座を実施する等、より広い広報・啓発に努めた。
実績	オレンジリボンキャンペーン活動の実施 2か月間
総括	各種会議やシステムの活用により、関係機関における要保護児童の情報共有や連携した対応を実施できた。児童虐待の未然防止や早期発見につなげるためには、より一層の広報・啓発を実施する必要がある。

1. 令和4年度事業内容等

No.	25	事業名	子ども連れの来庁者が安心して過ごせるスペースの運営	区分	継続
担当課	民生子ども課	関係部署（所）	—		
趣 旨	子どもが遊べるコーナーや子育て情報コーナーを備え、子ども連れの来庁者が安心して過ごせるよう、キッズスペースを設置、運営する。				
事業予定	・ なかがわっ子サポーターによる来庁者向け活動の促進 <u>感染対策</u> 子育て家庭の来庁が多く見込まれる時期を中心に、子育て家庭が安心して手続きを行えるよう、キッズコーナー「すまいる」等においてなかがわっ子サポーターによる託児等の活動機会を広げ、子育て家庭が安心して手続きできるような環境をつくる。				
計画目標	来庁者が安心して過ごせるためのなかがわっ子サポーターの活動件数 50 件				

●令和3年度の事業「キッズコーナー「すまいる」」を名称変更

2. 令和3年度の実施結果

(評価：☆☆☆)

計画目標	キッズコーナーでのなかがわっ子サポーター活動人数 24 人
実施内容	1 なかがわっ子サポーターによる来庁者の託児実施 保育園入所面接のために来庁した来庁者に対し、面接中に子どもを安全に見守り、保護者が面接に集中できるよう、キッズコーナー等でなかがわっ子サポーターによる託児を実施した。 2 子育て支援情報チラシ等の配架 子育てサロンや地域子育て支援拠点などの情報チラシを配架し、区内の子育て支援情報を入手しやすい環境づくりに努めた。
実績	キッズコーナー等でのなかがわっ子サポーター活動人数 30 人
総括	令和3年度より新たに、保育園入所面接等の機会に、なかがわっ子サポーターによる託児を実施することで、来庁者が安心して手続きや面接に集中できる環境を整えることができた。令和3年度の実施内容を踏まえ、このような機会を増やしていく必要がある。

1. 令和4年度事業内容等

No.	26	事業名	青少年育成区民大会・青少年音楽のつどいの開催	区分	継続
担当課		地域力推進室	関係部署（所）	—	
趣 旨		青少年育成区民大会は、青少年が各校の取り組みについて趣向を凝らして発表し情報交換することで健全育成・非行防止を促進する。青少年音楽のつどいは、青少年が自分たちで協力し合いながら発表会を運営し、チラシデザインの製作などを行うことで自主性を育成するとともに、学校の垣根を超えた連帯感を醸成し、青少年育成を促進する。			
事業予定		・ 青少年育成区民大会・音楽のつどいの開催 感染対策 [実施時期] 令和5年1～2月 [場 所] 中川文化小劇場 新型コロナウイルス感染症の状況に応じ開催できるよう規模や運営方法、対応策についてフレンドシップ協定締結校を中心に協議のうえ実施する。			
計画目標		青少年育成区民大会・音楽のつどいの開催 1回			

2. 令和3年度の実施結果

(評価：☆☆☆)

計画目標	青少年育成区民大会・音楽のつどいの開催 1回
実施内容	青少年育成区民大会・音楽のつどいの開催 感染対策 [実施時期] 令和4年1月 [場 所] 中川文化小劇場 [内 容] ・フレンドシップ協定締結校生による青少年による問題に対する取り組みの発表を通じた情報交換 ・フレンドシップ協定締結校生による音楽活動の発表と運営 ・区内小中学生による音楽活動の発表（動画出演） ・当日は各学校関係者が交差することのないように学校ごとに時間を区切って発表し、後日区公式ウェブサイトにて動画配信を行う等新型コロナウイルス感染拡大防止対策をした上で開催した。
実績	青少年育成区民大会・音楽のつどいの開催 1回
総括	フレンドシップ協定締結校を中心に新型コロナウイルス感染状況に応じた開催方法を事前に協議し、当日は最も厳しい感染状況を想定し検討した方法（無観客）で開催することができた。発表当日に各学校関係者以外は入場することができなかつたため、後日区公式ウェブサイトにて動画配信を行い区内の青少年へ情報発信を行った。 発表会の運営やチラシデザインの製作等を行うことで自主性を育成することができたが、学校の垣根を超えた連帯感を醸成するためには青少年が発表や運営に参加し交流することが重要であるため、新型コロナウイルス感染対策を徹底したうえでより多くの青少年が参加し交流できるようフレンドシップ協定校を中心に今後も実施方法を検討する必要がある。

1. 令和4年度事業内容等

No.	27	事業名	子ども会活動への支援	区分	継続
担当課		民生子ども課	関係部署（所）	—	
趣 旨		子どもたちが、地域の中で異年齢間での交流などさまざまな体験を通じて、主体性や社会性を身につけられるよう、子ども会活動を支援し、子ども会活動の活性化を図るため、区子ども会連合会の活動を支援する。			
事業予定		1 子ども会に対して、会員数に応じた運営助成金を交付する。 2 区子ども会連合会主催のキャンプや各種行事に対する運営及び情報発信を支援する。 3 魅力的な子ども会活動の実施に向け支援する。			
計画目標		子ども会の情報発信及び魅力ある活動に向けた支援			

2. 令和3年度の実施結果

(評価：☆)

計画目標	地域に向けた新たな子ども会の設立に向けた情報発信の実施
実施内容	1 子ども会に対して、会員数に応じた運営助成金を交付する。 2 区子ども会連合会主催のキャンプや各種行事に対する運営を支援する。 3 区子ども会連合会のホームページを活用し、活動内容などの紹介を行い、広く区民の皆さまに子ども会の活動を周知する。 4 地域役員に向けて、子ども会の魅力や意義などを周知し、新たに子ども会の設立や活動の活性化について情報発信を行う。
実績	1 子ども会に対して、運営助成金を交付した。 2 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、区子ども会連合会の主催行事は中止となった。 3 区子ども会連合会のホームページで、子ども会の活動紹介などの情報発信を行った。 4 新たな子ども会設立に向けた情報発信は行うことができなかったが、子ども会の新たな取組みとしてドリームプロジェクトに参加し、区役所でその内容をPRする等、広く子ども会の情報発信を行った。
総括	コロナ禍における子ども会活動について検討を重ねたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため行事は中止となった。そのため、活動内容の情報発信は十分に行うことができなかったが、今後の情報発信のあり方に向け意見交換を行った。 事業の中断が2年続き、子ども会離れが加速する恐れがあるため、積極的な情報発信と魅力ある活動実施に向けた支援が必要である。

1. 令和4年度事業内容等

No.	28	事業名	思春期セミナーの実施		区分	継続
担当課	保健センター保健予防課		関係部署（所）	—		
趣 旨	講話や体験をとおして、いのちの大切さを学び、性について考え行動する力を身につけるセミナーを、区内の小学校、中学校と連携して行う。					
事業予定	1 小学校におけるセミナーの開催 感染対策 主に4年生を対象にいのちの大切さを学べるよう、講話や体験学習を実施する。 [講話内容]いのちの大切さ、思春期の体とところの変化 [体験学習]赤ちゃん人形の抱っこ体験、妊婦体験、生まれる体験 2 中学校におけるセミナーの開催 感染対策 性に関する知識を学ぶ講話を中心に実施する。 [講話内容]いのちの大切さ、思春期の体とところの変化、人生設計と性の自己決定、身近な相談先を知る [体験学習]赤ちゃん人形の抱っこ体験、デートDV劇 3 中学校（特別支援級）におけるセミナーの開催 感染対策 健全な性意識を持てるように、講話や体験学習を実施する。 [講話内容]いのちの大切さ、思春期の体とところの変化、プライベートゾーン、人との距離感 [体験学習]赤ちゃん人形の抱っこ体験					
計画目標	思春期セミナーの実施 小学校 23 校 中学校（特別支援級含む）8 校					

2. 令和3年度の実施結果

(評価：☆☆☆)

計画目標	思春期セミナーの実施 小学校 23 校 中学校（特別支援級含む）8 校					
実施内容	1 小学校 主に4年生を対象に命の大切さを学べるよう、講話や体験学習を実施。 〔講話内容〕いのちの大切さ、思春期の体とところの変化 〔体験学習〕赤ちゃん人形の抱っこ体験 2 中学校 性に関する知識を講話中心として実施。 〔講話内容〕いのちの大切さ、思春期の体とところの変化、人生設計と性の自己決定、身近な相談先を知る 〔体験学習〕赤ちゃん人形の抱っこ体験、デートDV劇 3 中学校（特別支援級） 健全な性意識を持てるように、講話や体験学習を実施。 〔講話内容〕いのちの大切さ、思春期の体とところの変化、プライベートゾーン、パーソナルスペース体験 〔体験学習〕赤ちゃん人形の抱っこ体験					
実績	小学校 21 校、中学校 7 校（他特別支援学級 1 校）					
総括	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、学校と検討を重ね、時期を延期するなどした。今後は経年で実施しつつある学校の定着をはかるとともに、未実施校については実施できるよう検討していく必要がある。					

1. 令和4年度事業内容等

No.	29	事業名	高校生向け思春期保健事業		区分	継続
担当課	保健センター保健予防課		関係部署（所）		中川児童館	
趣 旨	人工妊娠中絶は母体の心身への影響が懸念されている。望まない妊娠や 10 代の妊娠中絶を防止するために、思春期の時期から「いのちの大切さと正しい性知識」を普及することが必要である。 そのため、区内の高校と連携し若者が望まない妊娠や性感染症を自ら回避する力を身に着けるため、高校生向けの事業を開催する。					
事業予定	・ いのちの大切さと正しい性知識を学べるよう、講話および体験・交流を実施する。 [感 染 対 策] [講 話 内 容]いのちの大切さ、思春期の体とこころの変化、人生設計と性の自己決定、人工妊娠中絶・避妊・性感染症について、子どもの権利、身近な相談先を知る [体 験 ・ 交 流]赤ちゃん人形の抱っこ体験、乳幼児とその親との交流 [そ の 他]リーフレットおよび相談先カードの配布					
計画目標	高校における思春期セミナーの開催 1 校					

2. 令和3年度の実施結果

(評価：☆☆☆)

計画目標	高校における思春期セミナーの開催 1校
実施内容	命の大切さと正しい性知識を学べるよう、講話及び体験を実施。 [講話内容]いのちの大切さ、思春期の体とこころの変化 人生設計と性の自己決定、L G B T 人工妊娠中絶・避妊・性感染症について 子どもの権利、身近な相談先を知る [体 験]赤ちゃん人形の抱っこ体験 [そ の 他]リーフレットおよび相談先カードの配布
実績	高校1校で開催
総括	10代の望まない妊娠の防止等について、高校と共有の上実施してきており、最近では減少傾向にある。今後は定着を目指し、継続実施する必要がある。

1. 令和4年度事業内容等

No.	30	事業名	生活保護世帯等の中学生の学習支援		区分	継続
担当課	民生子ども課		関係部署（所）	支所区民福祉課		
趣 旨	生活保護世帯・ひとり親家庭の中学生に対し、学習会への参加を促し、学力向上、高校進学をめざす。					
事業予定	・5月に生活保護世帯・ひとり親家庭の中学1年生から3年生を対象とした世帯に学習支援事業についてのパンフレットを送付し、地区担当員による家庭訪問などにより参加を勧奨する。また、8月から随時募集で新たな参加者を募る。 参加した児童の状況を事業者とも連携し見守り、必要な助言支援を地区担当員により行う。 <u>感染対策</u>					
計画目標	学習支援への参加率 30%（継続参加率 90%）					

2. 令和3年度の実施結果

（評価：☆☆）

計画目標	学習支援への参加率 30%（継続参加率 90%）
実施内容	・5月に生活保護世帯・ひとり親家庭の中学1年生から3年生を対象とした世帯に学習支援事業についてのパンフレットを送付し、電話等による参加を勧奨。また、8月から随時募集で新たな参加者を募った。参加した児童の状況を事業者とも連携し見守り、必要な助言支援を地区担当員により行っている。
実績	生活保護世帯の参加率 20.9%（継続参加率 93.1%）
総括	参加者数は少ないが、参加した児童は学習の習慣がつき、事業の目的である高校進学による将来的な経済的自立の土壌づくりに寄与している。新型コロナウイルス感染拡大により地区担当員による家庭訪問活動が出来ず効果的な勧奨が行えず参加率が伸びなかったが、事業の趣旨や目的に立ち返り、より多くの参加を促すため、家庭訪問などのケースワーク業務を活性化させ参加者数を増加させる必要がある。

1. 令和4年度事業内容等

No.	31	事業名	「地域包括ケアシステム」の深化・推進に向けての取り組み		区分	継続
担当課	福祉課		関係部署（所）	支所区民福祉課、保健センター保健予防課、社会福祉協議会		
趣 旨	誰もが自分らしく安心して暮らせるよう区地域包括ケア推進会議を中心として「地域包括ケアシステム※ ¹ 」の深化・推進をめざす。					
事業予定	1 地域包括ケア推進会議等の開催 感染対策 地域包括ケアシステムにおける課題の集約と対応方針、支援体制を検討するために以下の会議を開催する。コロナ禍においてもオンライン開催等により各機関の連携を図るとともに、効率的・効果的な会議運営を行う。 (1) 区地域包括ケア推進会議（区の地域包括ケアシステム構築の推進母体） (2) 認知症専門部会（認知症の普及啓発、地域ネットワークの構築など） (3) 生活支援部会（生活支援ニーズの把握や情報の見える化など） (4) 孤立（虐待）防止ネットワーク部会（地域支援ネットワークの推進など） 2 地区診断※²等を受けての取り組み 感染対策 地区診断により把握した地域課題に対して地域と協働で策定した取り組みを継続し、他の地域においても対応を進める。また、区全体の介護予防の課題について多様な主体と連携した情報提供や地域の取り組みにつなげる。					
計画目標	・ 区地域包括ケア推進会議の開催 2 回 ・ 認知症専門部会の開催 2 回以上 ・ 生活支援部会及び孤立（虐待）防止ネットワーク部会の開催 各 2 回					

※1 地域包括ケアシステム

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、医療・介護・介護予防・在宅医療と介護の連携・認知症施策・生活支援・住まいが包括的に確保される仕組み。

※2 地区診断

地域包括ケアに関わる各機関が、把握している学区ごとのニーズ、社会資源等の情報や統計データ等に基づき、地域の課題等を分析し、共有するもの。

2. 令和3年度の実施結果

（評価：☆☆☆）

計画目標	・区地域包括ケア推進会議の開催 2回 ・認知症専門部会の開催 2回以上 ・生活支援部会及び孤立（虐待）防止ネットワーク部会の開催 各2回
実施内容	1 地域包括ケア推進会議等の開催 区地域包括ケア推進会議、及び各部会を対面で1回ずつ行った。新型コロナウイルス感染拡大時にはオンラインにて区地域包括ケア推進会議を1回、認知症専門部会を2回開催し、生活支援部会及び孤立（虐待）防止ネットワーク部会を書面で1回ずつ開催することで関係機関と情報共有、意見交換を行った。 2 地区診断等を受けての取り組み 西中島学区及び愛知学区において地域ケア会議を実施し、地域の課題について協議を行った。区全体の課題である介護予防の取り組みについて区独自の体操「中川うちトレ」のパンフレットの配布、周知や地域で介護予防に取り組むグループや集いの場の把握を行った。
実績	・区地域包括ケア推進会議の開催 2回 ・認知症専門部会の開催 3回 ・生活支援部会の開催 2回 ・孤立（虐待）防止ネットワーク部会の開催 2回
総括	医師会、歯科医師会、薬剤師会、介護事業者、民生委員等、医療・介護・地域福祉に関わる多くの機関と各種取り組みの方向性や内容について情報共有・意見交換を行い、地域包括ケアシステムの深化推進を図ることができた。今後も課題を明確にして、より議論を深めていく必要がある。

1. 令和4年度事業内容等

No.	32	事業名	認知症を理解し地域で支える仕組みづくり	区分	継続
担当課	福祉課	関係部署（所）	支所区民福祉課、保健センター保健予防課、社会福祉協議会		
趣 旨	認知症を正しく理解し、認知症の人とその家族を地域で支える仕組みづくりを進める。				
事業予定	1 認知症サポーター養成講座の開催 感染対策 認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする「認知症サポーター」を養成するための講座を地域や関係機関と連携して周知し開催する。 2 認知症セミナー・講演会の開催 感染対策 認知症に関する専門職の知見を聴くことで認知症の予防や支援につなげるための区民向けのセミナーを区医師会等と連携し実施するほか、講演会を開催する。 3 「中川区認知症のしおり」の普及啓発 認知症になったときに進行に合わせて利用できる医療・介護サービス、地域の取り組みを紹介する「中川区認知症のしおり」を普及啓発するとともに内容の改訂を検討する。				
計画目標	- 認知症サポーター養成講座受講者数（令和4年度末までの累計）14,500人 - 認知症セミナー・講演会を実施 各1回				

2. 令和3年度の実施結果

（評価：☆☆）

計画目標	- 認知症サポーター養成講座受講者数（令和3年度末までの累計）12,900人 - 認知症セミナー・講演会を実施 各1回
実施内容	1 認知症サポーター養成講座の開催 月1回の定例講座は緊急事態宣言発出により5月、9月が中止となった。出張講座は35回開催し、休日講座を2回開催した。また、区職員に講座を実施し区職員受講率100%を達成するとともに、他公所（署）へ受講勧奨を行った。 2 認知症セミナー・講演会の開催 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止とした。講演会の代替として認知症予防のための運動についての医師の講話、中川区リハビリテーション協議会による自宅等で手軽に取り組める中川区独自の体操「中川うちトレ」の実演動画を名古屋市公式Youtubeチャンネル「まるはっちゅーぶ」で配信した。 3 中川区認知症のしおりの普及啓発 関係機関職員が中川区版認知症のしおりを使用し、窓口での相談時に認知症当事者、家族などへの説明を行った。また、認知症サポーター養成講座、認知症カフェ交流会で配布・周知した。
実績	- 認知症サポーター養成講座受講者数（令和3年度末までの累計）11,562人 - 認知症セミナー・講演会を実施 0回（代替あり）
総括	認知症サポーター養成講座の開催等、関係機関と連携して認知症理解の取り組みを進めることができた。今後も認知症の正しい知識を普及するための効果的な取り組みを検討していく必要がある。

1. 令和4年度事業内容等

No.	33	事業名	高齢者が地域で暮らしていくための生活支援・見守り支援	区分	継続
担当課	福祉課	関係部署（所）	支所区民福祉課、保健センター保健予防課、社会福祉協議会		
趣 旨	高齢者の生活支援ニーズを把握し、気軽に利用できるよう取り組みの充実を図り、高齢者を適切な関係機関につなげる仕組みづくりを進める。				
事業予定	- 生活支援ガイドブックの更新 フレイル*予防や区内で提供される多様な生活支援サービス・活動を案内するガイドブックについて、更新し普及啓発を図る。 - 地域活動の参加促進 感染対策 地域活動への参加を促すため、講演会と地域団体の活動紹介を行うセカンドステージセミナーを開催する。また、地域活動の紹介動画を作成・放映し活動参加を促す。 - 高齢者サロン・共生型サロン実施の推進 感染対策 高齢者の身近な交流の場であり、困りごと相談や介護予防にもつながる高齢者サロン・共生型サロンを拡大・充実させるため、開設・運営における情報提供、相談支援や専門職の派遣を実施する。 - 覚え書きカードの活用 緊急連絡先、民生委員、ケアマネジャー、かかりつけ医等を記入するカードを配布し、訪問時や緊急時に関係機関と連携した支援を図る。 - 数え100歳のお祝い 数え100歳に達する高齢者のご長寿をたたえ、敬老金の贈呈（市事業）に併せて保育園児作成のメッセージカードを贈呈する。				
計画目標	高齢者サロン・共生型サロンの実施数（令和4年度末） 122 か所				

※フレイル

加齢にともない、筋力や心身の活力が低下した状態

2. 令和3年度の実施結果

（評価：☆☆☆）

計画目標	高齢者サロン・共生型サロンの実施数（令和3年度末） 122 か所
実施内容	- 生活支援ガイドブックの更新 コロナ禍で危惧されるフレイルの予防及びサロンや支えあいの活動等の互いに助けあう地域の取り組み内容を強化した更新版を作成した。 - セカンドステージセミナーの開催 町内会長としての地域活動体験を連載している新聞記者を講師とした講演の動画及び地域活動の紹介動画をオンライン（Youtube）にて配信した。 - 高齢者サロン・共生型サロンの実施を推進 各サロンの運営状況を定期確認するとともに、コロナ禍での運営課題や開催する際の工夫（二部制・予約制の導入、会場変更等）の情報共有及びサロンで案内できるフレイル予防の情報提供を行った。 - 覚え書きカードの活用 関係機関と使用方法、記載内容を協議し、カードの更新を行った。 - 数え100歳のお祝い 数え100歳の高齢者へ保育園児作成のメッセージカードを贈呈した。
実績	高齢者サロン・共生型サロンの実施数（令和3年度末） 118 箇所
総括	地域住民、民生委員等から高齢者の生活ニーズを聞き取り、高齢者の生活の充実や支援につなぐ取り組みを進めることができた。今後も高齢者の生活支援につながる多様な手法を検討する必要がある。

1. 令和4年度事業内容等

No.	34	事業名	障害者の地域生活支援	区分	継続
担当課	福祉課	関係部署（所）	支所区民福祉課、保健センター保健予防課、社会福祉協議会		
趣 旨	区障害者自立支援連絡協議会※との連携などを通じて、障害者の地域生活支援の充実を図る。				
事業予定	1 区障害者自立支援連絡協議会と連携した事例検討会などの実施 感染対策 障害福祉に関する事例検討会や障害福祉サービス事業者向けの勉強会などを開催し、支援者間の連携・スキルアップを目指す。コロナ禍で対面実施が困難な場合はオンラインなどにより継続的な実施を目指すとともに、ウェブ会議サービスのグループ分け機能などを活用して議論の活性化を目指す。 2 私の防災ノート及び在宅避難のすすめなどの普及啓発 感染対策 障害者やその支援者が災害に対する備えを十分にすることができるよう、障害部門のみではなく他機関等とも連携しながら、私の防災ノートや在宅避難のすすめについての広報や、出張なほど講座の開催など、障害者の防災に係る普及啓発を行う。				
計画目標	- 区障害者自立支援連絡協議会と連携した事例検討会などの実施 12回以上 - 私の防災ノート、在宅避難のすすめに係る講座などの実施 1回以上				

※障害者自立支援連絡協議会

障害のある方が安心して暮らせる地域をつくるため、障害者団体・障害福祉サービス事業者・行政などが障害福祉に関する地域での連携や支援の体制などを話し合う会議。

2. 令和3年度の実施結果

(評価：☆☆☆)

計画目標	- 区障害者自立支援連絡協議会と連携した事例検討会などの実施 1回以上 - 私の防災ノートに係る講座などの実施 1回以上
実施内容	1 区障害者自立支援連絡協議会と連携した事例検討会などの実施 障害福祉に関する事例検討会及び障害福祉サービス事業者向けの勉強会を対面で3回、オンラインで10回行い、支援者間の連携・スキルアップを図った。オンライン開催は対面に比べて議論がしにくいという意見があったため、後半からはウェブ会議サービスのグループ分け機能なども活用し議論の活性化を目指した。 2 中川区災害時要配慮者（障害者）支援ガイドブック（私の防災ノート）に係る講座等の実施 難病講演会にて私の防災ノートの普及啓発を行った。また、新型コロナウイルス感染症を踏まえた「障害のある方のための在宅避難のすすめ」を作成、事業所等に配布するとともに、区公式ウェブサイトに掲載し、障害者の防災に係る普及啓発を行った。このほか中川消防署と合同で火災図上訓練を実施した。
実績	- 区障害者自立支援連絡協議会と連携した事例検討会などの実施 13回 - 私の防災ノートに係る講座などの実施 1回
総括	事例検討会などの実施により支援者のスキルアップを図ったほか、私の防災ノートに係る講座などを実施し障害者の防災に係る普及啓発を行うことができた。今後も障害者の地域生活支援をさらに進める必要がある。

1. 令和4年度事業内容等

No.	35	事業名	障害の理解の促進	区分	継続
担当課	福祉課	関係部署（所）	支所区民福祉課、保健センター保健予防課、社会福祉協議会		
趣 旨	障害のある人もない人もお互いに人格と個性を尊重し合いながら共に生きる地域社会を実現するために、区障害者自立支援連絡協議会を中心に様々な機会を設けるなどして障害の理解の促進を図る。				
事業予定	1 チームメッセンジャー事業※の実施 感染対策 社会福祉協議会など他機関と連携しながら、障害者（メッセンジャー）やその支援者が区内の学校や地域などを訪れて障害に関する出前講座を行う。 2 区民まつりへの出展 感染対策 障害について身近に感じられるよう、区民まつりに区民が障害者やその支援者と一緒にボッチャの体験などができるブースを出展する。 3 授産製品販売の促進 感染対策 障害者の社会参加や地域とのつながりづくり、また障害者の就労支援にもつなげるため、事業所との連絡調整などを行い区役所・支所での授産製品販売を促進する。また、各事業所などで扱っている授産製品の広報を行う。				
計画目標	・チームメッセンジャー事業の実施 2回以上 ・区民まつりへの出展 1回 ・授産製品販売の実施 月あたり20回以上				

※チームメッセンジャー事業

障害に対して正しい理解をもていただくために、障害のある方やその支援者が区内の学校や地域などを訪れて障害に関する出前講座を行うもの。

2. 令和3年度の実施結果

（評価：☆☆）

計画目標	・チームメッセンジャー事業の実施 2回以上 ・区民まつりへの出展 ・授産製品販売の実施 月あたり22回以上
実施内容	1 チームメッセンジャー事業の実施 社会福祉協議会の福祉教育などと連携し、区内の小・中学校で車椅子体験等の出前講座を4回行った。 2 区民まつりへの出展 まつり中止の代替として、区民まつりで実施予定であったボッチャ等の紹介を載せた地域だよりを作成、区公式ウェブサイトに公開して啓発を行った。 3 授産製品販売の促進 区役所・支所での授産製品販売を月あたり14回実施した。コロナ禍で販売を見合わせる事業所が多く販売回数が目標を下回ったので、代替として各事業所のおすすめの授産製品を地域だよりに掲載し、区のホームページに公開して啓発を行った。
実績	・チームメッセンジャー事業の実施 4回 ・区民まつりへの出展 0回（代替あり） ・授産製品販売の実施 月あたり14回以上（代替あり）
総括	出前講座やボッチャ等の周知・広報により区民が障害に対する理解を深めるきっかけづくりを行うことができた。今後も障害者と区民が交流する場づくりを行うとともに、障害者の社会参加や地域とのつながりづくりを進め、障害の理解の促進を図る必要がある。

1. 令和4年度事業内容等

No.	36	事業名	区民の健康づくりの推進	区分	継続
担当課		保健センター保健予防課	関係部署（所）	—	
趣 旨		がんは早期発見による早期治療が可能なため、全年齢に対してがん検診の必要性を普及啓発していく。特に、乳がんは自己触診法で発見できるため、講座を開催し知識の普及を行う。あわせて、健康で豊かな生活のため、ロコモティブシンドロームなどの知識を普及し、生活習慣病の予防につなげる。			
事業予定		1 がん検診の普及啓発 感染対策 子育て中の母親や高齢者の集まるサロン等で、がん検診の案内や説明を行い、積極的な受診を勧奨する。 2 乳がん講座の開催 感染対策 主に乳幼児の子育てを行う母親を対象に、乳がんの基本知識の講話や乳がんモデルを活用した自己触診法の説明を行う乳がん講座を開催する。また、乳がん検診の受検者に対し、検診実施後に自己触診法の啓発を行う。 3 健康相談の実施 感染対策 区民まつりや地域の子育てサロン等において、ロコモティブシンドロームの知識の普及等により、生活習慣病の予防につながるよう支援を行う。			
計画目標		・乳がん講座の開催 4回 ・区民まつりで健康相談の実施 1回			

2. 令和3年度の実施結果

（評価： ☆☆ ）

計画目標	・乳がん講座の開催 4回 ・区民まつりで健康相談を実施
実施内容	1 がん検診の普及啓発 新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた多くの事業やサロンが中止または縮小となったため、直接案内や説明を行う機会が少なく、がん検診ガイドや事業の案内チラシの配架や窓口での随時配布等を行った。 2 乳がん講座の実施 地域の子育てサロンにおいて、乳がん自己触診法教室を3回行った。 3 健康相談の実施 新型コロナウイルス感染症の影響により区民まつり自体が中止となったが、地域サロンを6回、いきいき教室（出張型・拠点型）を計6回実施し、その中で健康教育や相談等を行った。
実績	・乳がん講座の開催 3回 ・区民まつりで健康相談を実施 0回（代替あり）
総括	令和3年度も新型コロナウイルス感染症の拡大により多くの事業が中止となったが、今後は感染対策を実施しながら、市民の健康づくりのために積極的な実施を目指していく必要がある。